

理解を深めよう
もう一問!

Q1

マジョリティ側の“特権”って
どういうこと？

努力して手にしたのではなく、たまたまその属性を持って生まれたことで得られる恩恵が『特権』。

この『特権』は、既に持っている側には意識しづらく、「持っていない人にははっきりと感じられるもの。」

【上智大学 出口真紀子教授】

例えば、

- 「住所を聞かれて、躊躇なく答えられる」
- 「好きな人と結婚ができる」
- 「公共交通機関を事前連絡なく利用できる」

などですが、これらはマイノリティの立場でない限り、普段意識することはないのではないのでしょうか。



右利きというだけでも特権があります。はさみや自動販売機の料金投入口など、ほとんどのものが右利きの人を使いやすいように作られています。駅の改札も、右側にICカード読み取り箇所があります。ご飯を食べるとき、隣の人と腕が当たることを気にされている

方もおられます。これらのことに、マイノリティ側の人はその度に気づかされているのですが、マジョリティ側の人はずっと普段意識することはありません。

今、マジョリティ側が「特権」として無自覚に与えられた恩恵に気づくことが大切だと言われています。気づかないと、「自分は『ふつう』で、特別ではない。差別する人は、ごく少数の人だ。」「だから自分は、差別なんかしていないし大丈夫。」と誤ってしまいます。それは、差別のある現状に対して、「自分は変わる必要がなく差別されている方が変わるべきだ。」（被害者責任論）という考えになりかねません。そうではなくて、まず変わるべきは社会の差別の構造であり、『ふつう』と考えられているマジョリティ側なのです。



何も意識せずとも、「特権」を多く有している人もいれば、少ない人もいます。まずは普段意識することもない自身の「特権」に気づくこと。そこから様々な社会の問題を自分事として捉えられるようになるのではないのでしょうか。すべての人がお互いの権利を尊重し、支え合う社会でありたいものです。